

国語

I

出典

信原幸弘『「覚える」と「わかる」——知の仕組みとその可能性』〈第二章 わかる〉(ちくまプリマー新書)

解答

- 問1 1 ④ 2 ③ 3 ② 4 ⑤ 5 ⑥ 6 ①
- 問2 あ ④ い ② う ① え ⑥

- 問3 ア ③ イ ⑤ ウ ② エ ① オ ⑥
- 問4 a ⑩ b ⑧ c ⑤ d ③ e ② f ①
- 問5 g ⑩ h ⑤ i ② j ⑨ k ③ l ⑧
- 問6 I ② II ④ III ①
- 問7 ⑤
- 問8 ⑤
- 問9 ④
- 問10 ⑥・⑨

**問6** I、「説明ぬきに知っている言葉」を「実践的練習」によって「習得」していることが言葉の意味の習得に必要である、と直前にある。「膨大な練習によってはじめて獲得できる技能知」（二段落前）が基盤にあるということ。

II、直前の「この点からも」に着目する。「民主主義」という言葉の意味の理解には、「じっさいに『民主主義』という言葉を用いて行われる言語ゲームに参加して、実践的にその言葉の使用を学ぶ必要がある」とある。

III、直前の「『事実のあり方』の分節化に加えて、『価値のあり方』の分節化も起こる」から考える。

**問7** 「言葉の意味の理解」については次段落に「言葉の意味の理解の浅さと深さの違いは、どれくらい多くの文脈でその言葉の働きを知っているかの違い」とあるので、ロが合致している。また、「物事の意味の理解」については第二段落に「物事の意味の理解は、その物事の経緯と結果についての理解」とあるので、へが合致している。

**問8** 直後に「物事の意味を理解することは、その物事が他のどんな物事から生じ、どんな物事を引き起こすかを知ることである」とあるので、⑤が適切。言い換えると「物事と物事のあいだの関係を知らること」とあるので、④の「物事それぞれの」は不適。⑥も直後で述べられていることではあるが、「接続関係として表現」とは、「物事と物事のあいだの関係」を文によって表す方法を説明したものである。

**問9** ①・②・⑤・⑥は「練習」による「習得」についての説明なので除外する。同段落に「辞書を引くことで、私たちは膨大な数の言葉の意味を知ることができる」とあり、次の段落で「辞書をつぎつぎと引いていけば、…意味がわかる」とあるので、④の内容が合致している。

**問10** ⑥第二十一・二十二段落に「命題知」は「正しいということを知ること」、「技能知」は「物事のやり方を知っていること」とあるので、「技能知は物事のやり方を正しく知ること」が不適。

⑨後ろから三段落目に、「写真は…全体の体系的なあり方がわかるとはかぎらない」とあるので、「物事の体系的な理解をより深めることが可能となる」は不適。

## II

### 出典

『平治物語』〈中 常葉落ちらるる事〉

### 解答

- 問1 ア② イ① ウ③ エ②  
問2 い③ ろ② は① に④

問3 ②

問4 ④

問5 (1) ③・④・⑤ (2) ①

問6 a④ b⑤ c② d⑥ e①

問7 ③・⑤

問8 ③

### 解説

問2 い、「やは」が反語の用法であることに注意する。

ろ、「しほしほと」は「しよんぼりとした」という意味を表す副詞である。

は、「おはします」は「居る」の尊敬語。「むずらめ」は意志の助動詞「むず」に現在推量の助動詞「らむ」がついたもの。

に、直訳すると「この世のものではないご因縁」、すなわち〈前世からの因縁〉の意。常葉がこのあるじのもとを訪れたことを言っている。

問3 直後の「今夜ばかり身を隠して、子供を助けむ」をヒントに考える。②・③・⑤のどれかということになるが、「もがな」が願望の終助詞で、上の事柄の存在や実現を願う「が」があつてほしい、とあるといいなあ、という意味を補うので、②が適切である。

**問4**

「涙は袖に余りにけり」の解釈を「涙が溢れた」としている点ではどれも同じであるが、①・③は「夫の義朝に冷たい態度を取られ」が不適。常葉の言葉中の「夫の憂き心の色を見せしかば、恨めしさのあまりに」とは、自分たちの正体を隠すための作り話である。②は「武士の妻たるもの、何ともないと考えて」が不適。⑤は「家の主人の女の幸せそうな顔」が不適。

**問5**

(2) 「いかでか…べき」は反語の用法なので、④と⑤は除外できる。直前に「これほど寒く耐へがたきに」とあるので、②は不適。〈この家に泊めなければどうなるか〉という文脈なので、「あるじ」が「あなた様を生きながらえさせる」という③もおかしい。

**問7**

③第三段落中の「大人しき女、…常葉を見て、世に怪しげにうちまもり」に合致している。

⑤第四段落中の「命を失ふほどの目に遭ふとても、追ひ出だし奉るべきかは」に合致している。「かは」は反語の意。